

授業科目名	美学美術史	担当教員	熊倉 敬聡
必修の区分	選択		
単位数	2単位		
授業の方法	講義		
開講年次	2年第3クォーター		
講義内容	<p>(日本で「芸術」「アート」などと訳され誤解されることも多い)「Art」は、西欧近代という特定の地域・時代に作られた歴史的概念であり実践である。それは今や歴史的臨界点に達している。</p> <p>本授業では、近代における Art の「誕生」から出発して、それが 19 世紀に渡り探究し尽くされた末、アヴァンギャルド運動によって根本から異議申し立てされた後も幾多の危機を被り、ついには現在 (特に美術マーケットにおいて) Money の価値と禁断の婚姻を遂げつつある事態を、歴史的に追跡するとともに、その人類史的意義を、美学、現代思想などの視点から考察する。また、「Art 以降」も射程に入れ、特に日本で Art の外の分野で、これまでにない創造性が胎動している諸例を紹介し、その可能性を模索する。</p> <p>学生は単に一方的に講義されるのではなく、担当者が仕掛ける知的問いやミニワークショップを通して、自発的に考え、論じる力を養うことができる。</p>		
到達目標	<p>学生は単に「美学」ないし「美術史」的な知識を得るのではなく、「Art」という本来日本人的知性・感性には異質な概念・実践を、その異質性のままに体験・理解しつつ、それへの批評的意識を、幾つかの発表・論述を通して、自らの知的営為として体得することができる。</p> <p>同時に、絶えずその学的営為を、グループワークなど複数で共有、琢磨することによって、Art への複眼的アプローチを醸成できる。</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「美術」? 「芸術」? 「Art」? 「Fine Art」? 2. ロマン主義と「Art」の誕生、そして「Art」の自律化へ 3. Art と宗教、そして“二つ”の Art 4. ゴッホ 5. Art の「第一の死」と「第二の死」 6. アヴァンギャルド運動その1: イタリア未来派① 7. アヴァンギャルド運動その1: イタリア未来派② 8. アヴァンギャルド運動その2: ロシア・アヴァンギャルド① 9. アヴァンギャルド運動その2: ロシア・アヴァンギャルド② 10. モダニズム、あるいは Art の「第三の死」 11. ポストモダニズム、あるいは Art の「第四の死」 12. Art の「第四の死」の後、我々は何かを創造できるのか? — 「日本」に可能性はあるか? 		
事前・事後学習	<ul style="list-style-type: none"> ・各授業の冒頭、学生たちに前回の内容を振り返る作業を行ってもらおう。 ・各授業の最後、その回の授業内容を振り返り、ミニレポートを書いてもらおう。 		
テキスト	必要に応じて配付する。		

参考文献	熊倉敬聡『藝術 2.0』（春秋社、2019 年）、同『GEIDO 論』（春秋社、2021 年）。他は適宜紹介する。
成績評価の基準	出席および授業内課題（50%）、最終レポート（50%）で評価する。
履修上の注意 履修要件	
実践的教育	該当しない。
備考欄	定員 50 名を超える場合は抽選とする。